

令和 2 年度文部科学省委託事業

学校安全総合支援事業 報告書



三重県教育委員会

<目次>

1	事業の趣旨・経緯	1
2	学校安全総合支援事業推進委員会	3
3	三重県の事業	
	(1) 防災教育推進支援事業	4
	(2) 北勢地域での取組	7
4	鳥羽市の事業	
	(1) 南勢地域での取組	10
5	御浜町の事業	
	(1) 東紀州地域での取組	17

1 事業の趣旨・経緯

(ア) 事業名

学校安全総合支援事業（学校安全推進体制の構築）

(イ) 事業の趣旨

平成 28 年度に閣議決定された「第 2 次学校安全の推進に関する計画」に基づき、国において、安全教育、安全管理、組織活動の各内容を網羅して解説した総合的な資料として、「学校安全資料『生きる力』をはぐくむ学校での安全教育」が平成 31 年 3 月に改訂された。

「学校安全資料『生きる力』をはぐくむ学校での安全教育」においては、学校種ごとに安全教育の目標を定めており、中学校では、災害発生のメカニズムの基礎、さまざまな地域の災害事例と日常の備えや災害時の助け合いの大切さへの理解、自他の安全のための主体的行動、地域の安全への貢献などとしており、高等学校では、安全で安心な社会づくりの意義、地域の自然環境の特色と自然災害の種類、我が国のさまざまな安全上の課題への理解、自他の安全状況の適切な評価、安全な生活を実現するための適切な意思決定と行動、地域社会の一員として自らの責任ある行動や地域の安全活動への積極的な参加、安全で安心な社会づくりへの貢献などとしている。

これらの目標を達成するにあたっては、県及び市町において、これまでの事業等で蓄積したさまざまな先進事例も踏まえながら、学校種・地域の特性に応じた継続的で発展的な学校安全に係る取組を地域が一体となって進めることができる体制を構築することが必要である。

本事業は、市町等教育委員会を中心として、域内の学校で学校安全の組織的取組、外部専門家の活用、国私立を含む学校間の連携を促進し、地域全体での学校安全推進体制を構築するとともに、県域等へその仕組みを普及することを支援し、受託自治体内全域での学校安全の取組の推進をめざすものである。

(ウ) 事業の内容

学校種・地域の特性に応じた地域全体での学校安全推進体制の構築を図るため、県の教育委員会がモデルとなる地域（以下「モデル地域」という。）を設定し、モデル地域の市町等教育委員会が中心となってモデル地域全体での学校安全推進体制を構築する。モデル地域の実践を通じて得られた体制構築の成果等については県内の他地域にも普及し、県全体としての持続的な体制整備の構築

へと広げ、県内のすべての地域において学校安全推進体制を構築する。

(エ) 三重県におけるこれまでの経緯

平成23年3月11日の東日本大震災を受け、平成24年度に「実践的防災教育総合支援事業」として始まったこの事業は、平成27年度からは「防災教育を中心とした実践的安全教育総合支援事業」、平成30年度からは「学校安全総合支援事業」として、内容の充実を図りながら継続し、全国で取組が進められている。

三重県教育委員会においては、令和3年2月28日までの事業計画を文部科学省に提出し、令和2年6月3日付けで委託契約を結んだ。また、事業の円滑な実施のため、三重県教育委員会から鳥羽市及び御浜町に再委託を行うこととした。

(オ) 成果の普及

この事業の取組による成果を、本報告書を活用し、県内の市町等教育委員会や各学校等へ普及・共有し、子どもたちの命を守るための学校安全の推進を図っていくことが求められている。

あわせて、各学校に設置している「学校防災リーダー」を対象とした研修会等で、事業の成果について報告と説明を行い、学校内及び域内へ浸透させていくことが重要である。

2 学校安全総合支援事業推進委員会

(ア) 目的

県教育委員会は、事業の円滑な実施のため、事業の実施方針や県内への普及計画の検討、モデル地域の市町等教育委員会への情報共有・指導・助言・支援、県における取組の検証を行う「推進委員会」を設置する。

(イ) 第1回推進委員会

- ① 月日：令和2年9月14日（月）
- ② 場所：書面開催（新型コロナウイルス感染症拡大防止のため）
- ③ 議題：（1）昨年度の事業報告について
（2）今年度の事業計画及び中間報告について

(ウ) 第2回推進委員会

- ① 月日：令和3年2月9日（火）
- ② 場所：書面開催（新型コロナウイルス感染症拡大防止のため）
- ③ 議題：（1）今年度の事業報告
（2）課題及び今後の取組

<推進委員会委員名簿>

所 属	職 名	氏 名
三重大学大学院工学研究科	教授	浅野 聡
三重県教育委員会事務局高校教育課	充指導主事	谷奥 茂
三重県教育委員会事務局小中学校教育課	指導主事	近藤 慎一郎
三重県環境生活部私学課	主幹	中川 剛
三重県立菰野高等学校	生徒指導主事	小林 知樹
鳥羽市教育委員会事務局	指導主事	奥山 能隆
御浜町教育委員会事務局	主幹兼指導主事	南 圭輝
三重県防災対策部消防・保安課	課長補佐兼班長	藤原 弘一
三重県教育委員会事務局生徒指導課	主幹（警部）	新 益美
津地方气象台	防災管理官	吉村 香
三重県教育委員会事務局	学校防災推進監	今町 嘉範

3 三重県の事業

(1) 防災教育推進支援事業

いつ起きてもおかしくない南海トラフ地震や津波、頻発する台風や局地的大雨等の自然災害から児童生徒を守るためには、体験型防災学習を積極的に取り入れるなど、「自助」の防災教育を推進するとともに、学校が家庭や地域と連携し、防災対策の一層の強化を図ることが重要である。

県教育委員会では、学校防災リーダー等を中心に家庭や地域と連携した防災の取組を実施する学校に職員等を派遣し、防災教育の推進を支援する防災教育推進支援事業を平成24年度から実施している。

同事業では、児童生徒の防災学習や教職員の防災研修をはじめとして、保護者や地域住民と連携してさまざまな支援を行ってきており、令和2年度までにのべ1,400校が利用している。

防災講話や研修講義などの座学だけでなく、地震体験、防災タウンウォッチング、防災マップ作り、防災体験キット（防災すごろく、防災カルタなど）、液状化実験やストローハウスなどの体験型防災学習や、避難所運営ゲームなどの図上訓練指導などさまざまな支援プログラムを用意しており、児童生徒の発達段階や学校の実情に応じて柔軟な対応ができるようになっている。

事業の実施にあたっては、県教育委員会学校防災アドバイザーや教育総務課職員を学校に派遣するだけでなく、県防災対策部や県住宅政策課、三重建設技術センターなどとの連携を図るとともに、みえ防災人材バンクにも支援を依頼するなど、幅広い人材を活用している。

以前は、支援要請のあった学校を訪れ、ニーズに応じたプログラムを実施するに終わっていたが、児童生徒の防災意識を向上させるためには、体験的な防災学習を取り入れることが効果的であることを各種研修会等でアピールすることにより、内容に工夫を凝らした防災学習を実施する学校が近年増えてきている。

また、地域と一体となった防災の取組の重要性を訴えることにより、学校開放日に防災学習を実施したり、PTAや地域住民との研修会で防災をテーマとして取り上げたりするなど、防災における学校と地域の連携や地域の防災意識の向上に役立っている。

令和2年度における各学校での主な取組

① 県立上野高等学校定時制

日時 令和2年8月24日(月)

対象 全校生徒(定時制課程)51人

内容 「防災講話」「地震体験」

具体的な内容

- ・ 実際に地震が起こったときにどのような行動をとればよいかを理解した。
また、防災ノートを活用し、家から避難所までの経路について把握しておくことを確認した。
- ・ 三重県防災啓発車(地震体験車)を活用しての地震体験を行い、地震が起こったときに自分の身を守る方法を知るとともに、防災についての意識を高めることができた。

② 県立四日市南高等学校

日時 令和2年8月26日(水)

対象 全校生徒957人

内容 「防災講話」

具体的な内容

- ・ コロナ禍における密集を避けるため、校内放送による防災講話を実施した。防災講話は会話形式で行い、昨年度の学校防災ボランティア事業に参加した生徒も会話に加わった。
- ・ 地震から身を守る方法や高校生にできる防災対策を知るとともに、防災についての意識を高めることができた。

③ 紀宝町立井田小学校

日時 令和2年8月26日(水)

対象 教員14人、地域住民6人

内容 「避難所運営ゲーム(HUG)」

具体的な内容

- ・ 避難所運営ゲーム(以下 HUG)の手法を用いて、学校が避難所になった際の状況を仮想的に体験する訓練を行った。
- ・ 学校と地域とが連携してHUGを実施することで、学校が避難所となった場合の協議をおこなう際にどのような視点が必要となってくるのか、今回の訓練を通して確認することができた。



④ 志摩市立大王小学校

日時 令和2年10月27日(火)

対象 4年生18人

内容 「タウンウォッチング」「防災マップづくり」

具体的な内容

- ・ グループに分かれて、校区内を歩き、危険なもの、安全なところ、役に立つものをみつけていく。写真係や、地図にメモを書いていく係等、役割を分担して行った。
- ・ 調べたことをもとに防災マップを作成する。調べたものを地図に落としこむ際にはみんなで場所を確認したり、コメントを考えたりしながら、災害時に役立つ防災マップを完成させることができた。



⑤ 津市立香海中学校

日時 令和2年11月6日(金)

対象 全校生徒114人

内容 「避難所運営ゲーム(HUG)」

具体的な内容

- ・ 自分の学校が避難所になった際、どのように避難所を運営するとよいか意見を出し合った。避難所運営の難しさを実感するとともに、中学生の自分に何ができるか具体的に考えることができた。
- ・ 当日は「みえ防災人材バンク」から10名のボランティアに来てもらい、各グループに助言してもらった。

⑥ 松阪市立東黒部小学校

日時 令和3年1月16日(土)

対象 全児童32人、保護者23人、地域住民10人

内容 「防災講話」「地震体験」

具体的な内容

- ・ 親子で防災講話を聞くことにより、防災意識を高めるとともに、家庭でできる日頃からの備えについて考えた。
- ・ 三重県防災啓発車(地震体験車)を活用しての地震体験を行い、自分の身を守る方法を知るとともに、防災についての意識を高めることができた。
- ・ 児童だけでなく、保護者、地域住民にも参加してもらうことによって、地域全体の防災意識向上に役立てられた。

(2) 北勢地域での取組

(ア) 菰野高等学校での生徒会活動

① 学校安全アドバイザーと連携した取組

菰野高校生徒会と学校安全アドバイザーが、地域の安全について連携して取り組み意見交換を行った。その中で、生徒会役員が小中学校を訪問し、高校生による安全教室を実施すること（新型コロナウイルス感染防止のため中止）、小中学校児童生徒に対する「登下校安全チェックリスト」や「地域安全マップ」による啓発など積極的な意見が出され、「警察への協力要請」についても話し合った。

また、生徒会役員が学校安全アドバイザーから、通学路等の危険な箇所での防犯対策や、道路状況を踏まえた安全な通学方法等の指導を受けた。



② 警察等関係機関と連携した取組

○ 「犯罪被害防止」の啓発活動

菰野高校生徒会が登校時間帯に、菰野高校の最寄り駅である「菰野駅」において、四日市西警察署、安全協会と連携し、駅の利用者である高校生や一般市民の方に対し、犯罪防止のチラシ（女性安全マニュアル、自転車にツーロック）を配布するなど犯罪防止啓発活動を行った。



○ 交通安全の啓発活動「横断歩道における安全指導」

菰野高校の生徒会が、「交通安全の日」「横断歩道“SOS”の日」に、菰野町川原町地内の国道306号、国道477号菰野信号交差点において、四日市西警察署、交通安全協会、菰野小学校安全ボランティア等と連携協力し、菰野小学校の登校指導を行った。四日市西警察署の署長からも、お礼の言葉とともに、今後の継続した協力依頼を受けた。



今回の「犯罪防止」の啓発活動や「交通安全」安全指導の積極的な参加により、四日市西警察署から菰野高校の生徒に対する一層の協力要請がなされ、高校生地域の安全に対する意識向上に繋がっている。

③ 安全教室の実施

菰野高校において、生徒会役員が作成したパワーポイントを使用し、学年別に安全教室を開催した。また、四日市西警察署から2名の警察官を招き、交通安全と防犯の視点で生徒に注意指導をしていただいた。

実施後の「ふりかえりシート」では、「以前は交通安全、防犯面からの注意事項がよくわからなかったが、安全教室により理解できた」等の回答があった。また、四日市西警察署生活安全課、交通課から指導いただき、菰野高校と警察との協力面がさらに深まり、今後の安全活動に双方積極的に参加することを確認した。



(イ) 通学路の安全点検等の実施

県教育委員会が、警察官等OB 2名をアドバイザーに委嘱し、菰野町内の通学路の点検と安全調査を行い、その結果については菰野町教育委員会を通じて小中学校に情報共有した。



(ウ) 成果と課題

- ・ 高校生による出前授業（安全教室）は実施できなかったものの、高校生の安全意識の向上に繋がった。
- ・ 学校周辺の道路状況等をアドバイザーが調査したことにより、これまで危険の認識がなかった場所を危険箇所と認識することができた。その結果、改善を行い、児童生徒の安全確保につなげることができた。
- ・ 今後は、道路管理者を含め、道路改善が必要とする箇所を町内で把握し、学校間及び、関係機関との連携を強め、警察等と連携し地域全体で通学路等の安全確保を効果的に取り組む必要がある。

4 鳥羽市の事業

(1) 南勢地域での取組

① 講演会による啓発

(ア) 防災・減災教育講演会

市内外小中学校教員、市内外の教育委員会、行政関係者など 20 名がオンラインにて参加。及川幸彦氏を講師として招き、「学校と地域・関係機関が連携した防災教育の推進」～他地域の防災・減災教育の実践から学ぶ～と題して講演会を開催した。「なぜ防災教育が必要か？」ということについて、東日本大震災や熊本地震からの教訓を踏まえ、自助・共助・公助に続く N 助（培ってきたネットワークによる助け合い）の大切さとつなげて示していただいた。そして、持続可能な社会の実現をめざす防災教育について、全国の具体例を交えながら話していただいた。

(イ) 対象：市内外小中学校教員・幼稚園教員、行政担当者 等

(ウ) 事業のねらい

- ① 講演会において、「持続可能な社会の実現をめざす防災教育の展開」について学ぶ。
- ② 全国の、学校と地域が連携した防災・減災教育を例に、学校と地域の連携の方法や、その姿をとおして防災・減災・復興について学ぶ。
- ③ 過去の災害の教訓を学び、未来に備えることについて考える。

(エ) 講師

東京大学大学院教育学研究科附属海洋センター
主幹研究員 地球環境学博士 及川 幸彦 氏

(オ) 実施日

講演会：令和 2 年 1 2 月 2 5 日（火）

② 実践推進校による防災・減災教育の推進

(ア) 拠点校：鏡浦小学校、弘道小学校、加茂小学校、答志小学校

(以上の4校には、学校防災アドバイザーを派遣)

：菅島小学校、答志中学校、かもめ幼稚園

(以上の3校と答志小学校は緊急地震速報システムの更新を行い、システムを使った避難訓練を積極的に行う。)

減災学習研究校：鳥羽小学校

(イ) 事業のねらい

拠点校(うち、実践推進校として学校防災アドバイザー4校に派遣)を指定し、「鳥羽市防災・減災学習プラン集」等を使用した防災・減災の授業実践を行い、学校防災アドバイザーの助言を受け、よりよい授業実践のあり方を学ぶ。指定校以外の小中学校の防災教育推進担当者も参加し、鳥羽市内の学校全体に広げる。

また、減災教育推進校として指定した鳥羽小学校においては、カリキュラムマネジメントをとおして防災・減災教育を持続可能な取組とする研修を行った。そして市指定の研究会において及川幸彦氏の講演から学ぶ機会とする。

(ウ) 防災アドバイザー

三重大学大学院工学研究科 准教授 川口 淳 氏

(エ) 防災減災教育講師

東京大学大学院教育学研究科附属海洋センター

主幹研究員 地球環境学博士 及川 幸彦 氏

特定非営利活動法 SEEDS Asia 事務局長 大津山 光子 氏

特定非営利活動法 SEEDS Asia テクニカルアドバイザー

岸田 蘭子 氏

③ 研究推進校の実践（防災アドバイザー派遣）

（1）9月11日 鏡浦小学校「防災・減災マップをつくろう」

各学年での授業

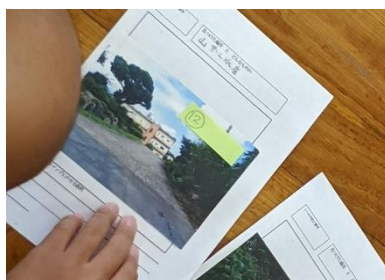
- ・ 地震の絵本を使って、三重の防災ノートも使いながら、様々なシチュエーションにおいて危険なところのことを考えたり、どのように行動するとよいかを考えたりした。また、被災後の3日間を乗り切る10のグッズを選び、その理由を伝え合う中で、命の大切さについても考える授業を実施した。

全校での取組

- ・ 8月に、今浦・本浦・石鏡の三地区を全校で歩いて回り、防災の観点で危険な場所、避難場所、減災のために必要な看板などを調べた。自分の住んでいる地区だけでなく、すべての地区を保護者と一緒に周ることで、「別の地区ならどうだろう。」といった防災の目を養い、親子で災害について考えることにつながったといえる。
- ・ 防災マップは、写真入りのカードを使って作成した。タウンウォッチング当日のことを、その日に書いた感想を使ったり写真を選んだりすることで、思い出しやすくなることのできた。大人も一緒に話し合いながらマップ作成に取り組むことができた。

川口准教授からのお話

- ・ 地震が来る、揺れるということを想定しておくことが大切であるというお話や、避難グッズを厳選して紹介していただいた。水1日3L、手回し発電ライト、トイレ・防寒具
- ・ 防災マップ作成の際、写真等の情報は地図の外に貼るとよい。
- ・ グッズの活用は、使う場所をイメージすることが大切で、数を厳選することで、一つひとつの防災グッズの意味を考えられた。



(2) 9月25日 弘道小学校「津波から命を守るには」

3・4年生対象の、津波の特徴を知る授業を実施した。続いて6年生から、紙芝居や劇を交えた発表があり、最後に川口准教授から講演をいただいた。

3・4年生の授業

- ・ 視覚的な情報を用いて、津波の仕組みや波の押し寄せる状況を知っていく内容であった。高さや速さについても、映像を提示したり、数値について考えさせたりして、実感できるように工夫されていた。その中で、実際に押し寄せる津波の高さを体験した。子どもたちが糸を引っ張っていくと、津波の高さ16m（体育館の天井までの高さ）を感じることができ、仕組みを使って、体験的に学ぶことができた。

6年生の発表

- ・ 避難訓練中におしゃべりをしている子がいたが、注意しても変わらなかったため、担任に相談をし、全校に訴える機会を持ちたいということから、子の発表が実現した。
- ・ 「避難訓練に真剣に取り組もう！」「命の大切さを知ってほしい。」という主体性に満ち溢れたメッセージが伝えられた。
- ・ 発表は紙芝居とグループ討議も行った。その姿は5年生へと引き継がれた。

川口准教授からのお話

- ・ 6年生の発表や「瀬乃崎」まで避難することと重ねて、石巻市門脇小学校を例に、考えて真剣に逃げることの大切さを伝えていただいた。
- ・ また、大人が避難しなくても避難する「率先避難」、学んだことは自宅でも、非常持ち出し袋の中身などについて話し合っしてほしいというメッセージも伝えていただいた。
- ・ 弘道小の取組に対して、避難訓練と授業がリンクして意味を持っていることが素晴らしいというお言葉をいただいた。



(3) 10月23日 加茂小学校「校内での身の守りを考えよう」

2年生の授業

- ・ 大きな地震が起きたら、どうすればいいだろうというテーマで、グループ討議をしたり、発表しあったりした。
- ・ 地震について考えることと、コミュニケーション力を合わせて実践できた。
- ・ 前時までに見つけた、学校内における危険について、身を守るためにどうするとよいかを考え、話し合ったことを、それぞれ発表した。
- ・ 休み時間に地震が起こったら、自分で考えて行動する必要があることを意識させた。それぞれの場所について写真を使いながら確認したので、イメージすることにつながったといえる。

川口准教授からのお話

- ・ 揺れに対する準備をしておくことが大切であること、日本は地震が起きる場所であることから、地震体験車に乗るときに自宅をイメージするなど、揺れても大丈夫なようにするとよいことから、お話をいただいた。
- ・ 緊急地震速報は、なるたびに避難すると、そのたびに訓練になることや、避難所では周りの人への思いやりを持つことについても伝えていただいた。
- ・ 上靴で避難することなど、当たり前に行っていることについて、必要かどうかを考えるように、そのプロセスを考えたり考えさせたりする必要がある。
- ・ 瓦やブロックを持たせてみることで、子どもがリアルな思考をすることも大切。
- ・ 危険度ランキングを作るなど、様々な危険を比較しておくことで、いざというときの判断につなげることができる。



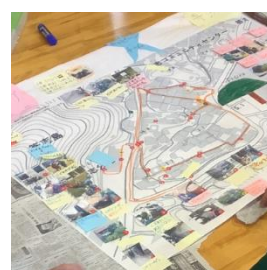
(4) 12月14日 答志小学校「防災・減災マップをつくろう」

全校授業

- ・ これまでに子どもたちが実際に歩いて世古別タウンウォッチングを行い、そこで調べてきたことを防災マップにまとめた。
- ・ 写真とコメント欄の大きさと地図の余白を工夫していただいたので、バランスよく配置することができていた。
- ・ 見てきたこと・そこで撮影した写真を使って防災・減災マップを作成することで、避難場所を確認したり、避難する道順を確認したりすることができた。
- ・ 高学年が中心となって、仕事を割り振りながら作業を進めることができた。

川口准教授からのお話

- ・ 経験があれば、津波や家が壊れるなどの怖いことに対して、どうしたらいいかわかるが、鳥羽市では難しい。そのため、イメージしたり、準備をしたりすることが大切。
- ・ 揺れ始めたら立っていることも難しいなど、イメージすることが大切。山へ逃げるとよいと、事前に考えておく。
- ・ 通学路の危険、家の中の危険、持ち出し袋の用意など、準備をたくさんしておく。
- ・ タウンウォッチングとマップ作りでは、まちの特徴を知る、地震や災害をイメージすること、そこにいたらどうなるかイメージするといったことが大切。
- ・ 山へ避難したら一晩は降りてきてはいけない、イノシシ対策も大切。(鈴が有効など)



④ 防災減災教育講師による研修・講演

(1) 1月7日 鳥羽小学校「カリキュラムマネジメントと防災・減災教育」 カリキュラムマネジメント

- ・ 防災・減災教育を含めた ESD を効果的に実施していくために、カリキュラムマネジメント図作成の研修会を行った。
- ・ 先進的な取組を行ってきた、京都市立高倉小学校元校長で SEEDS Asia テクニカルアドバイザーの岸田蘭子氏と大津山光子氏の指導を受けながら、ワークショップ形式で研修を進めることができた。
- ・ 鳥羽市を持続可能なまちとしていくための、持続可能な取組とするための有意義な研修となった。今後鳥羽市全体に広める機会を持っていきたい。

(2) 2月5日 鳥羽小学校

「鳥羽市教育委員会研究指定 鳥羽小学校研究発表会での講演会」 「命をつなぐ子 鳥羽をつなぐ子の育成」

- ・ 研究発表会において、持続可能な鳥羽の創り手を育てるための研究を行い、実践した。その発表会の最後に、『地域とともに豊かな学びをデザインする ESD』～持続可能な鳥羽の創り手を育てるために～と題して及川幸彦氏による講演をいただいた。コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、人数制限を設けるとともに、YouTube にてライブ配信も行った。
- ・ 防災・減災教育から、被災をした後の復興にまで視野を広げた取組につながるお話をいただき、鳥羽市内小中学校の教職員をはじめ、配信を視聴した市内外の先生方の、貴重な学びの場となった。

5 御浜町の事業

(1) 東紀州地域での取組

ア 学校防災アドバイザー 三重大学大学院工学研究科 川口淳准教授

イ 学校防災研修会の実施

(ア) 第1回御浜町学校防災研修会(阿田和小学校第1回研修会)

日時 令和2年10月31日(土) 8:30~12:30

場所 阿田和小学校

対象 全校児童、教職員、地域・保護者

内容 【防災学習】全学年防災授業

【防災避難訓練】「津波てんでんこ高台避難訓練」

(児童133人、教職員14人、その他60人)

具体的な内容

【防災学習】

- 〈1年生〉防災ノートの「学校からの帰り道で大地震が起こったら」という内容を、絵図やプリント、書画カメラを活用しながら学習した。
- 〈2年生〉防災クイズ～自分の命を守るために考えよう～という内容で、ピクトグラムの意味を理解する学習し、ピクトグラムを黒板に貼りだし、プリントを活用しながら学習を進めた。
- 〈3年生〉防災ノートの「学校からの帰り道(通学路)で大地震(津波)が起こったらどうするか」という内容をタブレット、絵図、プリントを活用しながら学習した。
- 〈4年生〉避難所に行かなければいけなくなったら困ること・気になることについて、カードを使いながら学習した。
- 〈5年生〉震災後、3日間生きぬくために、非常時の持出袋の中身はどうするかという内容で、プリントを活用しながら学習した。
- 〈6年生〉「その時、自分ならどうする」という内容をクロスロードで話し合い学習した。当時12歳であった子どもたちの思いをビデオで視聴した。

【高台避難訓練】

10時30分より、親子高台避難訓練を行った。児童133名 教職員14名保護者18名が参加し、紀南病院の上にある広場まで逃げた。およそ13分で全員到着した。



【防災啓発車（地震体験車）】

4年生以上76名 中学1・2年生53名 保護者34名が、地震体験車に乗り込み、震度7クラスの地震を体験した。

(イ) 第2回御浜町学校防災研修会（阿田和小学校第2回研修会）

日時 令和2年12月21日（月）8:30～12:30

場所 阿田和小学校家庭科室、阿田和小学校通学路

対象 6年生、教職員

内容 【防災学習】「タウンウォッチング・マップ作り」

(6年生25人、教職員6人、その他4人)

具体的な内容

【防災学習】

1、2限目に阿田和地区内4方面6カ所をタウンウォッチングした。タウンウォッチングでは、避難時の危険箇所、避難時に役立つもの、消火時に役立つものをみつけながら行った。地図にその箇所をチェックして写真を撮りながら確認していった。



3、4限目は、家庭科室で大きな図に危険箇所は赤、避難時に役立つものは緑、消火時に役立つものは青のシールと撮影した写真とコメントを書き、防災マップを完成させた。

(ウ) 第3回御浜町学校防災研修会（御浜小学校第1回研修会）

日時 令和3年1月19日（火）13:30～16:00

場所 御浜小学校 家庭科室

対象 6年生

内容 【防災学習】「タウンウォッチングをおえて」（6年生33人）

具体的な内容

【防災学習】

6年生は、事前に学校区内のタウンウォッチングを行った。

学年を4班に分けた後、担当ルートを決め、防災の視点に沿った工夫や危険箇所を調べながら見て回った。気づいた箇所では写真を撮り、コメントを添え「コメントカード」を作成した。そのコメントカードは校区地図に貼り、川口准教授が見えた際に行っている発表会（班



別で調べたことを発表し合う)で全体が見やすいようにまとめた。

発表会では、タウンウォッチングをして気づいたことや不安に感じたこと、疑問に思ったこと等も含め川口准教授に聞いていただき、講評として「タウンウォッチングをする目的」や「地震が起きた際のとるべき行動」等のアドバイスをしていただいた。

(エ) 第4回御浜町学校防災研修会(阿田和中学校第1回研修会)

日時 令和3年1月20日(水)13:00~15:30

場所 阿田和中学校 体育館

対象 全校生徒、教職員

内容 【防災学習】「クロスロードゲーム」(全校生徒68人、教職員12人)

具体的な内容

【防災学習】

川口准教授から、伊勢湾台風など、過去の災害を踏まえ、経験を教訓とし、次におこる災害での被害を軽減するための方法を実践していくことの大切さを話してくれた。

その後、26年前の阪神淡路大震災災害対策にあたった神戸市職員へのインタビューを本に作成されたガードゲーム「クロスロードゲーム」を行った。

避難所を開設したとき「避難所に犬を連れてくることを許しますか。」「三千人避難しているが、二千人分の食料しかない時、配りますか」など、どちらを選んでも何らかの犠牲を払わなければならないような質問に子どもたちは必死に考え、Yes、Noのカードを出し、その理由を説明していった。

「動物アレルギーの人もあるから」「動物は家族だから」「配らないと無駄になるから」「平等に配れないと不満が出るから」など、一生懸命考えて答えを出しあい、相手の異なる意見にも耳を傾け、話し合うことで防災への意識を高めた。



(オ) 第5回御浜町学校防災研修会(御浜小学校第2回研修会)

日時 令和3年2月3日(水)10:00~12:30

場所 御浜小学校 家庭科室

対象 5年生、教職員

内容 【防災学習】「ストローハウスを作ろう」 ~ストローで学ぶ耐震構造~
(5年生 32人、教職員 3人、町職員 3人)

具体的な内容

【防災学習】

まず始めに、川口准教授よりストローハウスを作ることを目的について説明を受け、その後6班に分かれて作成した。

子どもたちは、川口准教授から聞いた「建物は、筋交いを入れることで耐震性が増す」という構造的な仕組みを、実際に模型を作ることで体感的に学び、さらに「筋交いをどのように組むことが効果的なのか」についても具体的に考えながら、ストローを使って耐震性のある建物をグループごとに作ることができた。



(カ) 第6回御浜町学校防災研修会（神志山小学校第1回研修会）

日時 令和3年2月4日（木）9：00～12：00

場所 神志山小学校

対象 全校児童、教職員

内容 【防災学習】「タウンウォッチング・マップ作り」

（全校児童24人、教職員5人）

具体的な内容

【防災学習】

川口准教授からタウンウォッチングをするにあたり、見つけるものを3つ（①「危ない場所・もの」②「火を消す道具」③「役に立つ場所・もの」）説明していただき、3班に分かれて通学路を歩いた。帰校後、川口准教授よりマップ作りの説明を聞き、班に分かれて、調べた結果を撮影してきた写真とともに地図にまとめた。



まとめ方として、チェックした場所ごとに赤・青・緑の付箋に写真を貼って、番号を書き、メモをすることと教えていただいた。全体で交流する際には、危険な場所や物ベスト3と、主な役に立つ場所や物を1つ発表することになった。全体で各班が調べたことを交流し、危険個所の多さにびっくりするとともに、普段気づかないようなところも多く発見できて、改めて、自分たちの住んでいる地域を見直すことができた。



(キ) 第7回御浜町学校防災研修会（御浜中学校第1回研修会）

日時 令和3年2月4日（木） 14:00～16:30

場所 御浜中学校

対象 全校児童生徒、教職員、地域住民

内容 【防災学習】 「避難所運営ゲーム HUG」

【防災講義・講話】 「地域の人と学ぶ避難所運営」

(2年生43人、教職員15人、その他12人)

具体的な内容

【防災学習】

避難所運営ゲームHUGを行った。地域の方の情報（家が全壊・半壊・一部損壊。家族で避難・一人で避難。けが人・高齢者・発熱・ペット同伴など）をくみ取り、避難所である体育館や校舎のどこに配置するかを考える。お題のカードに対して互いの考えを出し合い、避難してきた人たちを配置する。

【防災講義・講話】

避難所の実際の様子についてのお話し。

熊本地震の避難所では中学生が「自分たちでできることはないか」「何が手伝うことはないか」と動き、その行動が大人を動かし、復興が隣の町よりも早く進んだ。避難者の立場に立って進めることが大切。

(ク) 第8回御浜町学校防災研修会（阿田和小学校第3回研修会）

日時 令和3年2月5日（金）10:00～15:00

場所 阿田和小学校 体育館

対象 全校児童、教職員、地域・保護者

内容 【防災学習】 5年生「ストローハウス」（5年生32人、教職員4人）

【防災講演】「大じしん大つなみにそなえる」

～さいがいで生きのこるために～

(全校児童136人、教職員18人、その他1人)

具体的な内容

【防災学習】

5年生対象に、ストローハウス体験を行った。いかに強度のある建物にするかを考えながら、作業をしていった。学校の中にも斜めの鉄筋が入っていることや、揺すってみたらどうなるか、高さがあるとどうなるだろう等、川口准教授の話の聞きながら学習することができた。



【防災講演】

人口や面積など、世界からみると日本は、どのような国なのか、また、日本で起こる地震の多さや規模などをクイズ形式で話が進められた。阿田和小学校の立地場所が海拔5.3mであることや七里御浜から500mであることを考えて、素早く高台へ避難することの大切さを説いてくれた。



(ケ) 第9回御浜町学校防災研修会（尾呂志学園小中学校第1回研修会）

日時 令和3年2月9日（火）13:00～15:30

場所 尾呂志学園たからホール

対象 全校児童生徒、教職員、保護者・地域の方

内容 【防災学習】「HUG（避難所運営ゲーム）」

（小学生11人、中学生8人、教職員16人、
保護者・地域の方2人、役場総務課防災係2人）

具体的な内容

【防災学習】

川口准教授からHUG（避難所運営ゲーム）についてのやり方の説明後、小中学生縦割り4班、教職員と地域の方合同の2班に分かれ、避難所運営を疑似体験した。子どもたちの活動では、小学1年生から中学3年生までが一緒になって考えることで、いろいろな立場の意見が交わされ、相手の立場に立った避難所運営をする姿が見られた。



教職員と地域の方の活動では、教職員の視点と地域からの視点を共有しながら実質的な避難所運営をする姿が見られた。活動後の意見交流でも、小中学生からは病人やペットを連れてきた「人」に注目した意見が出され、教職員・地域の班からは、トイレ、シャワー、住民の配置という「施設の運営」に注目した意見が出された。

川口准教授からは、「小中学生が一緒に取り組んでいて良かった。小学生（低学年）にHUGは難しいと思っていたが、中学生が上手にリードしてできていたので驚いた。尾呂志学園ならではの学習だと思う。小学生もしっかりと意見を言い、中学生は全体を見渡しながら考えることができていた。」とコメントを頂いた。

(コ) 子どもたちの感想

(クロスロード)

- ・ もし、大きな災害があったとき、いろんなところで厳しい選択を迫られる機会がたくさんあることを知った。災害の時こそ冷静でいることが大事になってくるんじゃないかと思いました。
- ・ 一度訓練じゃない警報が学校で流れたときは、頭が真っ白になってしまった。その時は誤報だったけど、もし本当に地震が来たら、正しい判断ができるか不安だった。でも、防災学習を行ってみて、いつ想定外のことが起こってもいいように普段から備えておく必要があると思った。
- ・ クロスロードの学習では、他にもっと良い方法は無いのか、その行動は危なくないのかなどを考えることが大切だと思いました。また、他の人の意見に流されないことも大切だと分かりました。

(避難所運営ゲームHUG)

- ・ いろんな人が来るので対応力がとても難しかった。今はコロナウイルスの事も考えないといけないので難しいと思った。
- ・ HUGをしてほんとに日常では問題にならないような小さな事も死活問題になるんだろうと思いました。南海トラフがいつおこるか分からないので、その時の為の備えが必要だと思いました。
- ・ 避難所を管理することは、想像以上にとても難しいことが分かった。さらに今回は新型コロナという条件も増え、ソーシャルディスタンスにも気配りをしないとといけないことが大変だった。実際にこのような状況になったときは、自分にできることを考えて行動したい。

(地震体験車)

- ・ 地震体験車では、見ているときは、たいしたことはないんじゃないかと思っていましたが、いざ、自分がやってみたら身動きが取れなかったり、自分の体を守る行動ができなかったりしたので、とても驚きました。

(タウンウォッチング・マップづくり)

- ・ じしんのべんきょうができてよかった。町の中にしょうかせんがおいてあることがわかった。ちゃんと自分のいのちは自分でまもる。町の中をまわって楽しかった。
- ・ 思った以上に危険な場所の多いことが分かりました。危険な場所が分かっていると避難するときにその道を通らなくてすむし、早く逃げられることが分かりました。
- ・ 避難するときに役立つものがたくさんあるということが改めて分かりました。どんなときに地震が起こるか分からないので、案内板や看板などをしっかり見ることの大切さが分かりました。

(ストローハウス)

- ・ 川口准教授の話で「三角形の形は崩れにくいけど四角形は崩れやすい」という

事を初めて知った。『でも、家は四角形が多いのに、どうやって崩れにくい家を作るんだろう』と思ったが、「四角形の中に三角形を入れることで崩れにくくする」という事も初めて知った。

- ・ ストローハウス体験学習では、頑丈な家をつくるには、広い面積を使って家を建てるのが大切だと分かりました。そして、地震が突然起こった時には、頭を守り、揺れが収まったら、すぐ逃げるようにしたいです。

(防災講話)

- ・ 防災講話では、地震についての対策や、もし起きた時にどういう対応をするかを改めて知りました。岩手県の小学校のように、地域の人も助けられるようになりたいです。練習からしっかりしていると、本番でもあせらず自分のできることを全力でできると思いました。また、地震のしくみや日本がどういう国なのかも学びました。世界で一番災害の多い国だと知って、準備したり訓練したりすることが大切で、地域の人たちにも伝えられるかなと思いました。

(サ) 川口准教授からの講評

「これまでの積み上げがより一層生きた年だった。御浜町が防災教育に力を入れ始めて約10年。そのころの小学生は中学生となり、卒業していった。だが、クロスロードゲーム（阿田和中）において中学生がまるで大人の議論のような意見をグループの中で発表できたり、またそれについて真剣に対応したりする姿に感動すら覚えた。（新型コロナの影響で）4会場に分散して取り組んだ避難所運営ゲーム（御浜中）もどうなるか心配だったが、どの班も議論のレベルは高くよかった。また、小学生とはじめておこなった避難所運営ゲーム（尾呂志学園小中）においても、中学生がよいリーダーとなり、また、小学生もしっかりと意見を言えており素晴らしかった。」との講評をいただいた。今後も、日々の教育活動の中で、防災・減災に視点をあてながらしっかりと授業を行っていく必要がある。